

幼年福祉演習 レポート課題

担当教員：檜田 美雄

人間教育専攻 幼年発達支援コース

学年：L2

氏名：中野剛

1. 課題内容

居酒屋での 5 人で飲み食いしているシーンの音声データに基づき、スクリプトを作成する。それを対象に分析し、会話の音声データを抽出する。

2. 会話内容について

会話内容は、居酒屋で会話をしつつ飲み物とつまみを店員に注文するやりとりを選択。互いの近況報告や会話の仕切り直しのシーンなどが何回かあり、店内の客足の様子などの影響により雰囲気は変化している。店内はほとんど客で埋まっており、近くの席には小さな子どもたちが騒ぎながら家族で食事をとっているため、笑い声がよく聞こえ、騒がしい。対象とするメンバーは周りの騒がしさを気にする様子はなく話している。

ここでは、居酒屋の店員へ注文をするやりとりをするのだが、他のメンバーの様子や欲しいものと一緒に注文をするやりとりを同時に行っている。一人が酒のつまみを注文したくなり、他の人にも何かいるかを聞くといった、やりとりをするシーンである。

3. トランスクリプトと音声データ

3-1. トランスクリプトの条件

引用データ：居酒屋での会話(店内での注文をする場面)

引用時間：00 時間 5 分 00 秒 ~ 00 時間 5 分 26 秒 計 26 秒間

登場人物：20 代男性 × 5 人(A・B・C・D・E), 店員 × 2 人(F・G)

3-2. トランスクリプト

-記録開始から 00 時間 5 分 00 秒 引用の内容スタート-

((E が合流する))

A: 何か頼もう。ネギ 5 本と... ((店員に向かって手を挙げ注文し始める/店員 F が聞きながら近づく))

B: どうしようか... ((C に向かって話しかけながら))

A: さらに ((E の方を見ながら))

E: <>いや、俺はいい。なしで<

A: いい? はい。はいこれで。

D: <>すみません。追加で焼きおにぎりをチーズを<。

A: >はい! おにぎり一つ<。 ((周りに目配せして他にいる人がいるのかを確認))

D: (0.5 秒)一つで。

A: え...っと あ...追加、おにぎり一個でいい? = ((周りに聞いている))

E: ええよ。

A: はい。それははどうなん? = ((空いたグラスを指しながら))
= あっはい! 生です:= ((店員がビールを持って来たため受け取る))
= えーっと...これで以上? ((Bと受け取りながら周りに聞く))

-5分26秒 終了-

4. 分析結果

4-1. 引用したデータを選択した理由

店での注文の場面を選択したのは、全員が何かしらの意思表示をする必要があるためである。いるのかいないのかの他、注文したいなら欲しいものは何か、いくつ必要か、といった情報のやり取りがどのように行われているのかを観察できるかと思いボイスレコーダーで記録を行った。

4-2. 分析

Aが中心になって騒がしい店内で他の4人とコミュニケーションをとりながら店員とも忙しくやりとりをしている。店内は客が多く、店員も忙しいため、Aがなるべく1回で早く注文を済ませようとする様子うかがえる。誰か特定の人に聞くというより、簡単な言葉かけや、視線などで周りややりとりしており、周りもそれに気付いて答えている。

Eが来てから注文をしようとしており、何が欲しいのかEに言葉をかけなくてもすぐにEが反応し、言葉にしなくても自分に聞いているのだという雰囲気を感じてすぐに回答していた。

そして、Aが注文を終えそうだと感じたDが追加注文をし、Aが店員に追加注文があるため引き留めることをしつつ、さらに周りに視線を向け、他の人は同じもので追加注文は無いのかを改めて確認している。Dは誰も注文をしない様子なので1つでいいことを伝えている。

Aがこの追加注文が他にないかを改めて確認している。語尾をのばし、聞く時間を無意識に長くしているのはおそらく前回の注文の時に短かったと感じたためだと考えられる。そして、注文したものが来たため、受け取った後、最後に言葉で改めて確認をしている。

これらの流れを見ると、無意識に言葉以外の情報のやり取りが多いことが分かる。短い言葉の中には、誰に言っているのか? どのような意味でいっているのか? というようなことを言葉にしなくてもみんな特に聞き返す様子もなく分かっている様子であるため、短い言葉かけをAが中心になって他の4人から聞き取り、全体の注文をまとめて聞きだし、店員へ伝えている。

つまり、この短いやりとりで、全員の飲み物、食べ物の有無や欲しいものについての情報5人分を店員へ伝えることができたのである。

5 . まとめの感想

初めて行ったので正直戸惑うこととばかりでした。はじめは自分が講義している様子を撮影し、聞き手の様子や、講義を行っている人と調光社とのやりとりを分析してみたかったが、一方的な物が多く、満足なデータが取れなかった上、見方に関して未熟な自分にはよくわからなかったため、急遽変更し、店での注文場面を分析することにした。

改めて確認してみると、ほとんど動きや目線といった事と、短い言葉で情報のやり取りを問題なく行っている。名前を言わなくても相手に伝わっているし、それぞれが邪魔にならないようにちょうどいいタイミングで会話に参加したり、主張したりしている。会話自体が大したことない日常的な物でも改めてしてみると、言葉以外の情報伝達が多と感じる。円滑なコミュニケーションをとるにはこういったジェスチャーのようなスキルが必要なもので、誰もが無意識のうちに使っているようである。